

マエストロ・アレックス・グレゴリー：イギリスのバークシャー州ウィンザー出身。ミラノ音楽大学でクラシックを学び、女王エリザベス2世よりマエストロの称号を公式に授与されている。'91年リリースの『Paganini's Last Stand』は7弦エレクトリック・ギターでレコーディングされ、ネオ・クラシカル・ロック・アンセムとして世界的に名高い「フェアリーテイルズ・ウォント・ダイ」が収録されている。'01年『Another Millennium』、'08年に『13 Jokes For Heavy Metal Mandolin』をリリース。バッハの名曲にチャレンジした最新作『Bach On Steroids』は、現在インターネットのみで配信されている。

## 英国のジャズ・ロック界とも密接に繋がる7弦ロック・ギターの巨匠

7弦エレクトリック・ギターを開発した英国人ギタリスト、マエストロ・アレックス・グレゴリー。イギリスのジャズ・ロック・シーンを知り尽くす彼に、セッションでのエピソードやジャズとの関わり、加えて自身が特許を持つという7弦ギターに関して尋ねてみた。

### イギリスのジャズ・ロック・シーン

**Q**：まず、あなたとジャズとの関係を教えてください。

**MAG**：僕はジャズからも影響を受けているんだ。特にトニー・ウィリアムス・ライフ・タイムの『Believe It』、ジョン・コルトレーンの『Giant Steps』、ジェフ・ベックの『Blow By Blow』、ソフトマシンの『Bundles』。それからアラン・ホールズワース、ジョン・マクラフリン、ヤン・アッカーマンもフェイヴァリットさ。僕はネオ・クラシカルと形容されるこ

とが多いけど、実際にはもっとクロスオーバーなプレイヤーなんだ。

**Q**：イギリスのジャズ・ロック・シーンについてお話し頂けますか？

**MAG**：様々なジャズ・ロック・プレイヤーと演奏するチャンスを得たけど、その切っ掛けを作ってくれたのがジョン・ハイズマンなんだ。ジョンはBBCで『ジャズ・イン・ブリテン』というジャズ・ロック番組を持っていたから、僕は彼の番組で曲を書いてプレイしたんだ。BBCは他にも音楽番組があったから、その後もセッションでいろんなプレイヤーとプレイしたよ。'83年には、ジャック・ブルースとラ

インタビュー・文：ジェイ・ジェイ宮本  
Text by JJ Miyamoto  
取材協力：アキ中林



『13 Jokes For Heavy Metal Mandolin』  
マエストロ・アレックス・グレゴリー  
BSMF (Steroids!)  
BSMF-2132



『Paganini's Last Stand』  
マエストロ・アレックス・グレゴリー  
徳間ジャパン (Priority)  
TKCF-45030

イヴをすることになった。ところが、ジャックったらショーの2日前になって急にナーヴァスになり始めたんだよ。曲を全て憶えられないってね。僕はジャックにチャートを使うようにアドバイスをしたんだけど、ジャックはそれを拒否。人前でチャートを使うのはイメージ的に良くないという理由でね。で、結局ライブはジャックの都合でドタキャンさ！

**Q**：思い出に残るジャズ・ロック・セッションは？

**MAG**：う〜ん、そうだね……最も思い出深いのはマックス・ミドルトンとのセッションだ

ね。ベースにEL&Pのグレッグ・レイク、ドラムにジェスロタルのバリームア・パーロウ、そして僕がギターという編成。とにかく最高のセッションだった。僕が曲のアウトラインを書いて、それにマックスがキーボードを加えていくような感じで作業を進めたんだ。マックスは『Blow By Blow』風のファンキーなプレイでぐいぐい引っ張るんだよ。一方、当時の僕はEL&Pのようなプログレッシヴ的な展開のプレイで、セッションは炸裂したよ！

**Q**：当時マックス・ミドルトンから、ジェフ・ベックに関して面白いエピソードを聞きましたか？

**MAG**：もちろんさ！『Blow By Blow』に関してのエピソードだけど、当時ジェフは、ジョン・マクラフリンのマハヴィシユヌにやられていて、彼の頭の中はいつもマクラフリンのソロでいっぱいだったんだ。マハヴィシユヌ・オーケストラをもっとロック的に発展させて出来たのが『Blow By Blow』なわけだけど、このアルバムでマックスは曲も書いているし、かなりの部分に貢献しているんだ。『Blow By Blow』はマックスのプレイに合わせてジェフが自由にジャムって出来たアルバムといっても過言ではないよ。マックスはキーボード・プレイヤーとしても素晴らしいけど、ジェフ・ベックに捧げた名曲「ザ・ローナー」を聴いて分かる通り、最高の作曲者でもあるんだ。コーギー・パウエルやゲイリー・ムーアが「ザ・ローナー」を採り上げたのもそのためさ。ジェフは実際ローナー（孤高な人）だけど、この言葉は才能のある人のために使われる言葉でもあるんだ。

### 7弦ギターの開発者

**Q**：あなたは7弦エレクトリック・ギターの開発者としても知られてますが、ジャズではジョージ・ヴァン・エプスが7弦ギターを'40年代からプレイしてます。あなたのギターとどう違うんですか？

**MAG**：まず誤解のないように伝えると、僕は7弦エレクトリック・ギターに関して正式に特許登録をしている。そこには「7弦エレクトリック・ギターとその開発者」と記されている。確かにジャズではヴァン・エプスのようなプレイヤーが早い時期からギターに7弦を取り入れているけど、正直僕のギターとはコンセプトが全く異なる。ヴァン・エプスのギターは単純に言えばアコースティック・ギターにベース音を単純に加えただけのもの。一方、僕の7弦エレクトリック・ギターは完

## 「ジャズでプレイされている7弦ギターと僕の7弦のギターとは全く関係ないんだ」

璧なロック・ギターとしてデザインされている。例えば24フレット仕様、7弦ハイA設計、ソリッド・ボディでダブル・カッタウェイ、トレモロ構造っていう風にね。ハイAでプレイしても弦が切れないようにマシンヘッドに特殊な工夫がされている。更に1フレットから24フレットまで一気にプレイ出来るように、ヘッドストック側のフレット幅を狭く、ボディ側のフレット幅を広く設計しているのが特徴。今市場に出回っている7弦エレクトリック・ギターは、僕のアイデアをそのまま採用しているだけ。僕は子供の頃からクラシックを学んでいて、ヴァイオリンの音色に親しんでいた。ヴァイオリンのサウンドをエレクトリック・ギターで再現したいというテーマを当時から持っていた。それをギターで再現したのが僕の7弦ギターというわけ。だから、ジャズでプレイされている7弦ギターと僕の7弦のギターとは全く関係ないんだ。

**Q**：『Paganini's Last Stand』はフェンダーで7弦ギターでレコーディングされたんですよね？

**MAG**：そう。だけど実際には、それ以外のギターも使っているんだ。僕がギブソンに特注したピアノ・ギターという8弦エレクトリック・ギターもプレイしているし、当時デザインしたばかりのエレクトリック・マンドリン、通称ヘヴィ・メタル・マンドリンがそうだよ。僕はこのアルバムでアラン・ホールズワースとジョン・コルトレーンのソロにインスパイアされたプレイをしている。よく聴いてもらえば分かるはずだよ。

**Q**：確かアランからギターのアドバイスを受けたんですよね？

**MAG**：そう、僕がまだキッズだった頃ね。もちろん、アランともよくジャムったよ。だから僕のギター・ソロは確実にアランの影響を受けている。ジョン・コルトレーンのソロを聴くように薦めてくれたのも、実はアランなんだよ。「コルトレーンのソロはギター・ソロをプレイする上で凄くヒントになる」とアランはよく言っていた。なぜアランがそう言ったかという、アランは元々サクソフ・プレイヤーになりたかったからなんだ。

▶フェンダー製7弦エレクトリック・ギターのプロトタイプ。カスタム・ショップのジョン・ベイジとマイケル・スティーヴンスが、幾度かのやり直しを経てマエストロ・アレックスのデザイン設計に忠実に制作した。



**Q**：アランとの思い出深いエピソードは？

**MAG**：'74年の夏のことだけど、アランはソフトマシーンでスタジオに入っていたんだ。そう、『Bundles』のレコーディングさ。僕はまだスクールに通っていた。夏だったから授業が早く終わるから、僕はそのままアランのスタジオに直行したよ。あのレコーディングの間、僕はアランのスタジオにいたんだ！アランが使ったギターや機材も全て知っているよ。これを話すとみんなびっくりするはず。『Bundles』の最初のソロでは、実はES-175Nを使っているんだ。そう、メセニーで有名なあのギターさ！

**Q**：最近の活動や、今後の予定などを教えてください。

**MAG**：僕の最新作『Bach On Steroids』は、アメリカではユニヴァーサル傘下のフォントナからディストリビュートされている。今は『Bach On Steroids』と『13 Jokes For Heavy Metal Mandolin』のアルバムのプロモーションに力を入れているんだ。あと、『Paganini's Last Stand』はレーベルがなくなってしまったので現在入手困難だから、なんとか再発売させるように動いているんだ。